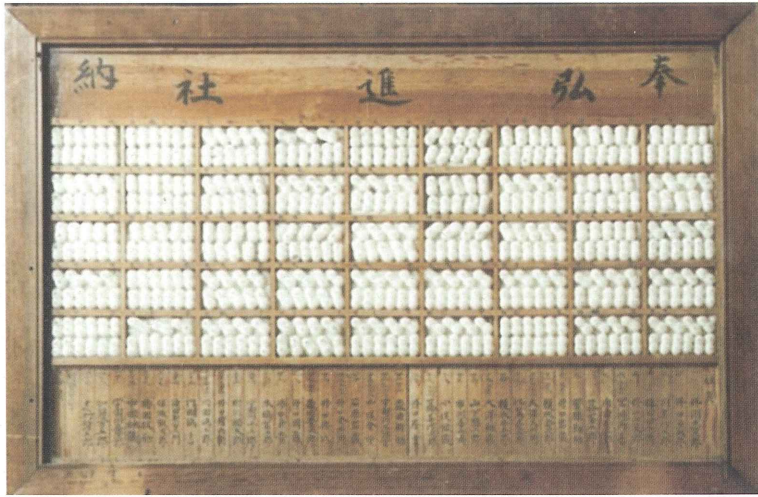


繭額



〔登錄年月日〕昭和六年三月三〇日
〔種別〕有形民俗文化財(信仰)
〔名稱〕繭額
〔点数〕一面
〔所有者等〕荻窪白山神社
〔所在地等〕上荻一―二―一七

繭額

縦六五・五cm、横九九・五cmの額を四五の枠に仕切り、その中に九〇二個の繭を収納している実物繭額で、荻窪白山神社の神楽殿に掲げられている。枠の棧と額面の上・下段に番号・繭の種類・奉納者名が墨書されている。

この繭額は明治三二年（一八九八）四月、弘進社社中の養蚕家四二名が共同して作成し奉納したものである。

弘進社は井荻村地域を中心とする養蚕家の結社で、蚕種紙の共同購入、養蚕技術の改良等を目的として、おそくとも明治二七年（一八九四）までには設立されていたと思われる。社長には下井草の大沢初蔵が就任した（指定文化財大沢家所蔵文書参照）。井荻村はこの弘進社の設立をバネに明治末から大正初めには、豊多摩郡養蚕の中心地となっていたといわれている。

弘進社社中が繭の改良と増産を願って奉納した本繭額は、明治中期から大正にかけて盛んであった区内北西地域の養蚕の歴史を語る民俗文化財で、区の明治大正期の産業資料としても見逃し得ない資料である。

【文化財所在地】

